

元祖

モノモリ書店

令和2年度 愛知教育大学附属岡崎中学校

吉本新喜劇のヤンシー＆マリ

読書だより コンヌがせよきなんてアリビタク
アズハナ?

第34話 R02.08.25(火)

「つらいと感じたときに
少し違う見方をしてみる。」

★今回、紹介する本は、『苦しい時は電話して』（著/坂口恭平、出版/講談社現代新書）です。

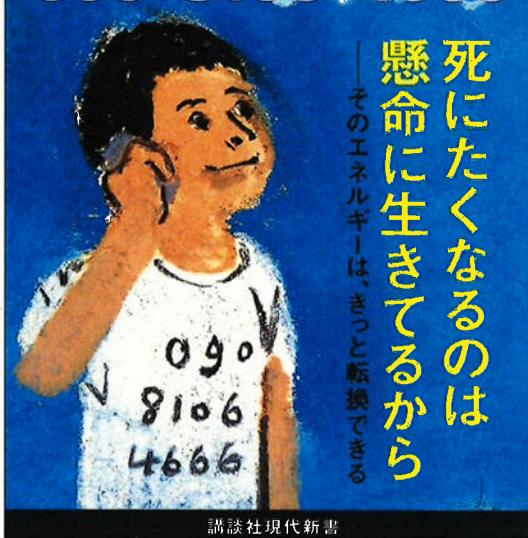
建築家であり、作家であるとともに、絵を描いたり（表紙絵も本人）、歌もうたう（声がとてもすてき）、坂口さんがまっすぐに語りかけてくれる本。

表紙にある携帯電話の番号は、坂口さん本人のものです。この番号は、「いのっちの電話」と呼ばれ、生きるのがつらい人と話をするために、坂口さんが公表しているものです（表紙に載せるところがすごい…）。

この本には、「いのっちの電話」のことが書かれていますが、それだけでなく、少しでも、「今つらいな」「もやもやするな」と思ったときに、「どのような切り抜け方（ものの見方）ができるか」を教えてくれる内容にもなっています。アーティストである坂口さん独特の語り口に好き嫌いはでるかもですが、「自分との向き合い方」、そして、「世界との向き合い方」を考えられる本です。

苦しい時は電話して
坂口恭平

090-8106-4666



講談社現代新書

*苦しむことができる力は、

ここにないものを作り出す*

時には、逆にとても
大きな力になります。
(P.157-161)

「不歩にならぬ」には意味が
みる、そこと何とかのかへ
変わ、いく
はず。

*体を使って変えられる

ことだけを
変えればいいんです。
(P.198)

生まれる
生きる

生き出す